

## 平成 28 年度第 2 回長野市拡大版総合教育会議 議事録（要旨）

1 日 時 平成 28 年 10 月 3 日（月） 午後 3 時～午後 4 時 30 分

2 会 場 長野市役所 7 階 第二委員会室

3 次 第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 協議事項

「教育に関する現状の課題」について

①全国学力・学習状況調査について

②企業の教育支援・家庭教育への支援について

(4) 閉会

4 出席者

○加藤久雄市長

○長野市教育委員会

近藤守教育長、坂口昌夫教育長職務代理者、藤澤令子委員、倉石和明委員、  
塚田まゆり委員

加藤二佐雄 元日本 PTA 全国協議会副会長、鷺澤幸一 商工会議所教育問題特別  
委員長、水野雅義 長野市 PTA 連合会顧問、山口あずさ 長野市 PTA 連合会参与

○職員

樋口博副市長

増田企画政策部長、松本教育次長、熊谷教育次長、田中保健福祉部長、上杉  
こども未来部長、倉石文化スポーツ振興部長、酒井秘書課長、小池教育委員会  
事務局総務課長ほか関係する市長部局及び教育委員会事務局の職員

5 会議要旨

開会 進行：増田企画政策部長

加藤市長あいさつ

- ・本日は、第二回の拡大版総合教育会議の開催に当たり、皆さまのご参加を頂き感謝する。また、商工会議所教育問題特別委員長の鷺澤さんから、教育の課題の現状についてのお話を頂けるということであり、よろしくお願ひしたい。
- ・今年度から長野市は、ひとり親家庭、生活保護家庭の学習支援について、貧困の

連鎖を断ち切ろうと取り組んでいる。当初の予定を大きく上回る応募状況があり、急遽定員を増やした。一方、生活保護家庭については応募が少ないため、こちらの募集についても力を入れていきたい。

- ・ハローワークと連携した就職支援事業を始めて半年程になるが、毎月、大勢の方からご相談いただき、100人を超える方が就職に結び付いている。
- ・本日の会議が有意義なものとなるよう、皆さまのご協力をお願いしたい。

#### 近藤教育長あいさつ

- ・本日は、平成15年度から実施している標準学力調査（NRT）の結果、市立長野中学校入学選抜試験適正検査結果における、これからの学力観に求められる適性についてご報告する。
- ・少子人口減少社会において、少子化に対応した、子どもたちにとって望ましい教育環境を形成するため、長野市活力ある学校づくりの検討委員会を7月に設置した。この1年は、長野市の現状を理解し、今後どのようにしていくのかという点において幅広い視点からご意見を頂き進めてまいりたい。

#### 協議事項

##### (1) 「教育に関する現状の課題」について

- ・熊谷教育次長から「子どもの学力・体力」について資料に基づき説明
- ・鷲澤幸一 長野商工会議所 教育問題特別委員長から、「企業の教育支援・家庭教育への支援」について資料に基づき説明

#### 説明内容

（「子どもの学力・体力」について）

- 1 全国学力・学習状況調査結果公表について
- 2 標準学力検査（NRT）の経年変化から見える効果について
- 3 これからの学力観に求められる適性について
- 4 運動と遊びのプログラムの実践から
- 5 一貫教育を通して自立した18歳を目指す長野市モデルについて

（その後の意見交換）

（「企業の教育支援・家庭教育への支援」について）

- 1 地域全体の公共心、道徳心向上に関する事業の実施について
  - (1) 「長野市大人と子どもの心得八か条」の推進について
  - (2) 事業所での積極的なコミュニケーション活動の推進について
- 2 保護者が学校行事に参加しやすい職場環境づくりの推進について

## その後の意見交換

（「子どもの学力・体力」について）

- ・ 中学2年生女子の体力検査の結果が飛躍的に伸びているが、丁寧な指導によるものと考えられる。
- ・ 標準学力検査（NRT）の結果、小学生と比較し、中学生は全国平均を下回っているため、細かい対応策が必要。
- ・ 標準学力検査（NRT）は、小学4年生、5年生、6年生、中学1年生で実施されているが、学力向上のため、中学2年生でも実施したほうが良いのではないか。
- ・ 13年前と比較し、国語、社会、理科の教科間のバランス、算数の学習項目間のバランスが良くなった。

（「企業の教育支援・家庭教育への支援」について）

- ・ 事業所の採用担当者から、最近の新人社員に対し、人としての幼稚化が気になるという意見が出ている。幼稚化は、親が過保護になりすぎているか、あるいは、放任しすぎていることが原因ではないかと思う。
- ・ 「長野市大人と子どもの心得八か条」の基本的な挨拶の重要性や、相手を尊重すること等、変わってはいけない基本姿勢がある。
- ・ 意欲を失った子どもたちがどうすれば意欲を取り戻せるかということは、今後、考えていかなければならない問題。
- ・ 意欲を失った子どもへの対応について、将来何になりたいかということより、何でもよいので子どもが成功体験を持ち、自分に自信を持つことによって、変わることができる。
- ・ 幼児教育において、自己肯定感を育てるためには、運動が良い。幼児教育のプログラムに運動を取り入れ、幼児期に達成感、成就感、挑戦心を養い、自己肯定感を育てる。全ての保育園において幼児教育をしっかり行い、幼児期に自己肯定感を持つことができれば、不登校も無くなっていくように思う。
- ・ 従業員である保護者が、学校行事へ参加することや子どもの関わる時間を作ることは大切なことであると、事業所の意識を変える必要がある。
- ・ 親と子どもが一生懸命話をする、コミュニケーションの不足があると考えられ、親自身にもコミュニケーションの不足があるように感じられる。
- ・ 地域・家庭・PTA・学校・企業での子どもの課題への情報共有、連携について考えていく必要があると感じた。

## 加藤市長

- ・ 本日の会議において、改めてさまざまな問題点を認識できたと思う。さまざまな

応用力を身に付けるため、基礎学力・基礎体力を付けることが大切だと思う。

- 企業、地域、学校、市が、具体的にできるところから対応し、将来を担う子どもたちをしっかりと育てることが目標であると思う。
- 今後も総合教育会議をとおして、具体的に現場に生かせるような体制が、少しずつでもできるようになればと思う。
- 本日は、お忙しい中、ありがとうございました。